

## 第 20 回 日本統合医療学会抄録

学校法人後藤学園中医学研究所所長 兵頭明

テーマ：「鍼刺激による認知症改善」

### 【抄録】

#### 一、認知症に対する東洋医学の可能性をさぐる

認知症に対する東洋医学の可能性をさぐるため、平成 21 年 10 月 31 日に文部科学省戦略的基盤研究・社会連携研究推進事業の一端として認知症国際フォーラム「認知症に東洋医学が挑む」が神奈川県川崎市で開催され、天津中医薬大学・第 1 付属病院の韓景猷院長は、アルツハイマー型認知症と血管性認知症 435 症例の患者を対象とした鍼灸治療によって、MMSE（認知機能検査）スコアの改善、日常生活動作（ADL）の改善がはかられたという研究成果を報告されました。

#### 二、医療・介護連携による認知症専門鍼灸師の育成事業

認知症国際フォーラムの主催機関である（一社）老人病研究会は韓景猷院長の基礎研究・臨床研究の成果を踏まえ、平成 22 年 10 月から平成 27 年 11 月までに医療・介護連携による認知症 Gold-QPD 育成講座を合計 7 回開催し、現在約 130 名の認知症専門鍼灸師が在宅・高齢者入居施設・通所介護施設、グループホーム、鍼灸治療院等にて多くの認知症の方のサポートを行っています。

#### 三、文部科学省委託事業による取り組み

学校法人後藤学園中医学研究所は、「認知症の人に寄り添う新たな人的資源となる中核的鍼灸専門人材の育成」を目的として、平成 26 年度、27 年度に文部科学省委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」の認定を受け、『認知症の人およびそのご家族を支えるための西洋医学系・介護福祉系・鍼灸医学系 3 分野連携型モデル教材』、その DVD 教材の開発を行ってまいりました。

#### 四、多職種連携をベースとした認知症に対する鍼灸治療の成果と今後の可能性

ここでは、前述の認知症専門鍼灸師が家族連携、施設連携をベースに取り組んでいる在宅、高齢者入居施設、通所介護施設、グループホームなどでの取り組み成果の一部をご紹介させていただき、今後の様々な連携の中での認知症の人に対する鍼灸治療の可能性を一緒に探ってまいりたいと思っております。